

藤枝市教育委員会

平成28年8月定例会会議録（概要版）

- 1 開催日 平成28年8月30日
- 2 場所 藤枝市役所西館5階 第2委員会室
- 3 会議に附した事項 (別紙のとおり)
- 4 出席委員
教育長 山本満博
教育長職務代理者 松浦正秋 委員 大社幸子
委員 瀧下悦代 委員 横山久男
- 5 欠席委員
- 6 出席した事務局職員
教育部長 大畑直巳 教育政策課長 内記秀夫
学校教育監 小林彰 主席指導主事 海老岡正乃
学校給食課長 中山文敏 生涯学習課長 片山豊実
図書課長 安達剛正
総務係長 岸本倫子 書記 興津景子

教育委員会 平成28年8月定例会

日 時 平成28年8月30日 午前9時00分
場 所 市役所西館5階 第2委員会室

1 開 会 午前9時00分

2 会議録署名委員氏名 大社幸子委員、瀧下悦代委員

3 日程第1 諸般の報告

事務局

- 1 藤枝市立小中学校通学区域の調整・審議結果について
- 1 「平成27年度藤枝市内児童生徒の問題行動等の状況」について
- 1 平成28年度中体連全国大会・東海大会・県大会出場について
- 1 科学教育の推進「朝比奈大龍勢科学研究事業」について

4 閉 会 午前9時50分

教育委員会 平成28年8月定例会

日程第1 諸般の報告

- | | |
|-----|--|
| 教育長 | これより日程第1 諸般の報告について、事務局からお願い致します。 |
| 事務局 | <ol style="list-style-type: none">1 藤枝市立小中学校通学区域の調整・審議結果について<ul style="list-style-type: none">●「水守」を「水守、水守1, 2, 3丁目」に変更する
志太2丁目503 青島北小→青島東小
1 「平成27年度藤枝市内児童生徒の問題行動等の状況」について<ul style="list-style-type: none">●問題行動 H26は小4が多かったが、H27は小5、6が多い
不登校 小6→中1 4倍に増える
1 平成28年度中体連全国大会・東海大会・県大会出場について<ul style="list-style-type: none">●全国大会出場は個人は2名（相撲・柔道）、団体はなし
東海大会以上に進んだ生徒は市長を表敬訪問し報告会を行う
1 科学教育の推進「朝比奈大龍勢科学研究事業」について<ul style="list-style-type: none">●静岡理工科大学に委託
工学的解明、講演会、教室の開催 |
| 教育長 | その他に報告はありますか。 |
| 事務局 | <ol style="list-style-type: none">1 水難事故について<ul style="list-style-type: none">●8月18日 瀬戸川（寺島河川敷公園付近）
西益津小学校1年生女児が死亡
市内各校に、水難事故防止の注意喚起についての文書を配布
西益津小学校では、スクールカウンセラーを配置
現在、子どもたちの様子については大きな問題はない |
| 教育長 | これより質疑に入ります。質疑はありませんか。 |
| 委員 | <p>問題行動の件ですが、女子の問題行動がかなり増えていることがわかります。大変心配な状況ですが、平成28年度夏休みが終わりましたので、今年度はどうでしたか。また深夜徘徊については、平成25年度の突出が目立ちますがそれはなぜですか。</p> <p>また、不登校について、小学校6年生に比べて中学1年生になると4倍に増えています。これは、よく言われている「中1ギャップ」が要因でしょうか。環境や状況により不登校の要因は異なると思いますが、瀬戸谷地区は、現在、小中一貫教育を目指し取り組んでいます。瀬戸谷中学校は、「中1ギャップ」についてはどのような状況であったのでしょうか。今度、小中一貫教育を目指す上で「中1ギャップ」の解消に大きな役割を果たすと思いますので、瀬戸谷中学校の状況について教えてください。</p> |

事務局

まず女子生徒の問題行動につきましては、件数、人数共に増えています。昨年度は、問題行動の多い女子生徒が複数おり、その子たちが繰り返し起こしていた状況です。今年度に限り、その生徒たちは落ち着いてきましたが、学校外での交遊関係は気になることが続いておりますので、今年度も注意しております。深夜徘徊の件ですが、平成25年度は報告の件数が多く、やはり人数的にも多かったので、これもその生徒たちが何度か繰り返し起こしたため多くなりました。

この件数と人数は確かなものとはいえないところもあります。あくまでも学校に家庭や警察から報告があった数になっており、学校が知らないところで問題行動があるかもしれません。

最後に不登校についてですが、平成27年度は中学校でかなり多くなっています。瀬戸谷小・中学校は小中一貫教育を進めています。私は昨年度まで瀬戸谷中学校に勤務していましたので、子どもたちの様子はよくわかりますが、「中1ギャップ」はあまり感じませんでした。小学校と中学校の子どもたちが交わる機会がたくさんあり、中学生になることに不安があるという児童は、他の学校と比べると低いと思われまます。

ただ、瀬戸谷地区の場合は、小学校1年生から中学校3年生まで同じ集団の中で生活していきますので、集団の中での自分の立ち位置がなかなか変わらず、そこに息苦しさを感じ不登校につながることもあり、瀬戸谷中学校でも不登校の生徒は現在1名おります。「中1ギャップ」というよりも、集団の中での人間関係の問題は、小学校1校、中学校1校の地区については、今後考えていかなければならないと思います。

委員

平成25年度は、深夜徘徊、無断外泊がかなり多かったので、平成26年度になると減っています。これは問題行動を起こしていた中学3年生が卒業したから減ったのか、それとも指導の成果なのか教えてください。

事務局

問題行動を起こしていた中学3年生が卒業し減ったというのもありますが、もちろん学校の指導の効果もあると思います。

教育長

学年によって多い時もあります。

委員

中学校までは義務教育なので、親の他にも学校の先生が指導してもらえますが、中学校を卒業してしまうと、問題行動に対し厳しく見てくれる人が減ってしまいます。家庭に問題がある子どももいると思いますので、親をあてにできない子どもたちに対する卒業後のサポート体制があれば教えてください。

事務局

義務教育段階では、学校の支援が大変大きいですが、卒業してしまうと中学校では把握できにくくなります。現在、志太榛原地区では、少年サポートセンターで、中学校で問題行動を起こした子どもたちに対し、引き続き注意していますし、児童相談所でも相談を受付しています。市では子ども家庭課が、18才未満の子どもに家庭に介入し、相談を受け支援しています。

また今年度より、市に子ども発達支援センターができ、幼児期から18歳までの子どもたちを支援していく体制が出来ています。

事務局

事務局から体制について説明しましたが、地域との関係は生涯学習課が担当しています。青少年健全育成会議を中学校単位10地区で開いています。地域の皆様にも地域の目で育てていただきたいという活動をしています。また補導員が夜9時頃まで活動しており、個々ではありませんが、地域全体で活動してお

ります。

委員

要望なのですが、義務教育の間は学校でサポートしてもらえますが、中学校を卒業してから親を頼れない子どもたちもいますので、その子たちがSOSを発信する方法や、卒業後の社会では、こういうところで助けてもらえるという事を教えてから中学校を卒業させて欲しいと思います。

事務局

大切なことだと思います。中学校で話をさせてもらい、気になる子どもに対しアドバイスしていきたいと思います。

事務局

市ではこども発達支援センターを中心に、今まで義務教育で終わっていた情報を継続しようと、今年7月に、市内高校が入った連携会議が初めて行われました。高校側も、そのような情報を得ることに大きな意義があるので、今後は、清流館高校も入りたいとの話があり、そこでどのような話し合いが行われていくか未知数ではありますが、中高の連携の第一歩を踏み出しました。これは県内で藤枝市が初めてだと思われま。

教育長

主催をしているところはどこですか。

事務局

こども発達支援センターです。もしかしたら発達障害がメインかもしれませんが、いずれにしても気になることを繋げていくこととなります。

教育長

その他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、以上で本日の全日程を終了いたしましたので8月定例会を閉会いたします。

閉 会

午前9時50分